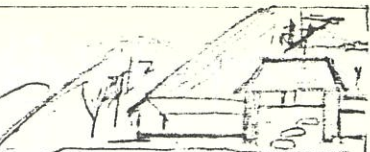
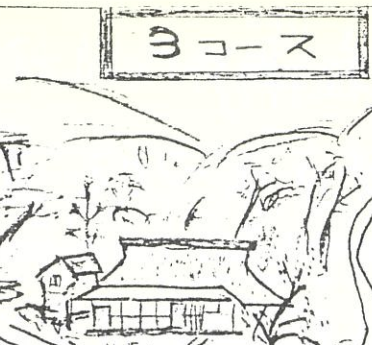
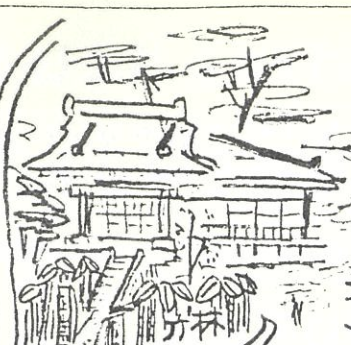
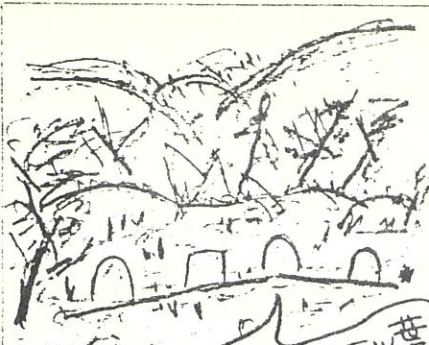
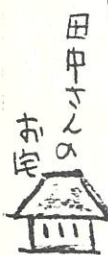


3コース



④ 小川田三ツ葉
田田ではじめて
小川田三ツ葉が
作られたのはこ
です。



⑤ 六部塚
の碑

⑥ 正山寺
真言宗のお寺で、
参道の竹林か
とてもきれいです。
南山は1615年

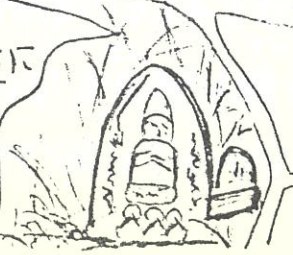
③
石仏
古くからの農家(森家)
今から150~180年前に
建てられたという古い農家
どっしりと建てられて、とても
立派です。

② 稲荷神社
付近の人々がお祀り
している稲荷様、
明治の頃、神明神
社に合祀される
ときには、
狐の
お供え
まつて、お稲荷
様を神社まで
お送りしたとい
うことです



飯の余中亡った
尼さんや村の人々は
手厚く葬ってやり塚を
建てました。田地造
成で石碑だけが
今ここに移されています

① サイノカミ (道祖神)
悪い神様を追い払うため、村境に
いて、村人の安全を守っていたのか
サイノカミ。とても子供好きの神様
で、小正月の晩には子供たちが集まって
どんと焼きをします。



①〈サイノカミ (道祖神)〉

サイノカミは、市内では、セノカミ、道祖神と呼ばれ、昔は、村境や橋の袂などに祀られるものゝした。

今のように良い薬や防災設備の整っていない時代には、人びとは病気や災害を村に入ってくる悪い神様の仕業だと考えました。そこで悪い神様が村の入口にやってきましたら、これを追い返してもらうために村境の道端にサイノカミをお祀りしたのです。サイノカミは、道端の神様ですから、その後、旅人の安全を守る神様にもなりました。

サイノカミには、石に「道祖神」と文字を刻んだものや、お地蔵様をかたどったものなど、いろいろあります。

このサイノカミのところでは、小正月(1月14日)の晩に村の子ともたちが集まって、お正月の松飾りや古くなった神社のお札などといっしょに燃やすのです。これをドンド焼きといい、この火でお団子を焼いて食べると風邪をひかないともいいます。

サノカミは子どもが、とても好きで、まわりで、子どもたちが遊んでくれるのを、いつもたのしみに待っているのだということです。

②〈稲荷神社〉

稲荷神社は、日本で最も数の多い神社のひとつです。稲荷様のお使いの狐が稲をくわえて来たのが、日本の稲作のほじまりだと言い伝えもあって稲荷様は、もとは農業の神様でした。今では、商売繁盛の神様になっていところもあります。

この稲荷様は、押越、野中など周辺の人たちがお祀りしているものですが、ひとつ面白い話が伝えられています。

明治のころに、この稲荷様が早の神明神社に合祀(いくつかの神社をいっしょにお祀りすること)されるようになりました。この合祀の日の夜、村の人たちがふと見ると、この稲荷様のある丘から向かいの神明神社の丘のほうまで、点々と提燈の明かりのようなものが、見えるのでした。夜遅くそんなたくさんの提燈をつけて出掛ける人は、ありません。それで、村の人びとは、きっと稲荷様をお使いの狐が神明神社まで送っていったのだらうと思ったそうです。

なが ^{あひ} 長い間 お祀りしてきた箱荷様が、神明神社に合祀 ^{ごし} されてしまったので、村の人びとは、とてもさみしくなりました。それで昭和になつて再び ^{ふたたび} ここに、小さなお箱荷様をお祀りすることにしたのだそうです。

③ 〈古くからの農家(森家)〉

いま ^{しゅじん} 今のご主人で11代目。この家が建てられたのが、6代目のご主人の頃 ^{ころ} といひますから、およそ150~180年前に建てられた農家です。母屋 ^{おや} を中心に土蔵 ^{どぞう}、物置き ^{ものお}、シモヤ ^{しよや} (堆肥 ^{たいひ} 小屋)、などがあり、回りを竹林や野菜畑に囲まれています。

家の中には、台所 ^{たいどころ} と呼ばれる土間 ^{どま} があり、囲炉裏 ^{いり} など残 ^{のこ} されていました。

以前 ^{いぜん} は、町田市 ^{ちいぎ} の他の地域にも、こうした古くから農家がたくさん見られました。近年 ^{きんねん} 次つぎと取りこわされ、そのどろしりとした姿 ^{すがた} もめ、きり見られなくなりました。

④(小山田三ツ葉)

小山田バス停から西の方に少し歩くと、右手に田中亮三さんのお宅があります。このお宅の前の細い道を登っていくと、左手にいくつもの横穴が掘られているのに出会います。ここは町田で名高い「小山田三ツ葉」発祥の地。

田中亮三さんのお父さん、庫三さんが、大正四年にはじめて「小山田三ツ葉」を考案されました。

当時、小山田一帯は、夏の米作り、養蚕(かいこ)は盛んでしたが、冬には、炭焼きくらいで、別にこれといった作物もありませんでした。村の人びとは、何とか冬場の作物はないものかと考えていました。

むかし田中さんのお宅には、よく鎌やカツオブシを行商する人びとが宿を借りていましたが、そうした行商人のひとりに越路福太郎という人がいて、田中さんに、よそで「もやし三ツ葉」を作って成功している人がいる話を聞かせました。そこで田中さんは、さっそくいろいろと調べて小山田でも三ツ葉を作ってみようと考えたのです。

小山田三ツ葉の栽培法は、横穴式無加温軟化法と呼ばれ、南斜面の
土手に横穴を掘って作ります。穴の入口は、縦90cm、横60cmくらい。中
に入るとタミがる枚から4枚も敷けるほど広びろとしていて、いつもホカホ
カしています。

何度も試みても失敗し、田中さんがこの横穴を利用して「小山田三ツ葉」の栽培
に成功するまでに「なんと十年もかかった」ということです。小山田の自然とそこに育った
農家の知恵が、「小山田三ツ葉」というみごとな成果を生み出したのです。田中さんの
ご苦労を詳しく書いたものが、図書館にもありますから、調べてみるととても面白いと思います。

田中さんのお宅の横穴を見学させていただく場合には、ちゃんとお断わりをしてから、
お仕事のじゃまにならないようにしましょう。決して穴の中に入ったりしてはいけません。

⑤〈六部塚〉

田中谷戸倶楽部の庭には、いくつかの石仏がありますが、会館に向かって左手の竹やぶ
の中に、ひとつだけ、高さ45cm、幅21cmの小さな石碑が建てられています。碑面は

「寛保二年、六十六部詠西順比企尾五月十四日」と刻まれています。この石碑
には、悲しい伝説が伝えられています。

むかし、この村に乳飲み児をかかえた尼さんが、通りかかりました。子どもは、腹を
すかせて、せめいげに泣いています。尼さんは、思いあまって、子どもに乳をのませてもら
と、村人に頼みました。親切なある村人が、乳を手えると、子どもはすぐに泣き止んで、
尼さんと子どもは、また、いずこともなく立ち去って行きました。

ところが翌日になって、峠の道端に息断えている尼さんの姿が見つかりました。背負っていた
はずの子どもは、どこを探しても見当りませんでした。

村人は、あわれな尼さんを悼んで、手厚く葬り、そこに小さな塚を築きました。そ
して数年が過ぎて、ある日、亡くなった尼さんの縁に連なる片桐という六部が訪ねて
来て、村人に厚く礼を言い、その塚を改めて再建しました。それからその場所を六部塚
と呼ぶようになったのだそうです。六部塚は、小山田会館の脇の道をずっと登って

行ったところですが、この石碑は、そこからここに移されて来たものです。

石碑の側面には、「嘉永三年十二月再建 信州伊奈郡阿武隈村、俗名

片桐勘四郎」と^{こんりゅうし}建立者^ちの名がちゃんと^{まじ}刻まれています。六部塚の詳しい言い伝えが「町田市史 下巻」に載っています。

※ 六部

六十六部の^{やくしゆ}略称、すかし、日本全土66カ国を、法華經を一部ずつ^{おさ}納めながら^{にほんぜんこ}、鎌倉から室町時代に^{ほけきやう}興って江戸時代に^{さか}盛んになりました。

⑥ (正山寺)

田中谷戸倶楽部の脇の道を登ってしばらく行くと右手に正山寺があります。美しい竹の林に囲まれているこのお寺は、真言宗(大谷派)で京都東本願寺の末寺です。山号は野中山正山寺。もとは、西本願寺に属していましたが、江戸時代の貞享年中(1684~1687)に東本願寺に移ったと言われています。

江戸時代元和元乙卯年(1569)5月、祐玄というお坊さんによって創建されましたが、永禄12年(1589)に武田信玄の小田原侵入に力を貸したため、祐玄は北

条氏に堺の小山町下番場しほんぼにあった寺を造られて、現在の正山寺けんざいに移ったと言われ
ています。小山町のほうには今も正山寺跡せいざんじと墓地みどが残っています。

ご本尊ほんぞんは、阿彌陀あみだ如来にょらい。山門には、「野中山」「正山寺」と山号・寺号が、
彫ほられています。



② 庚申塔

江戸時代、
人々の間で
盛んに行な
われた庚申
信仰は、も
と中国から
やって来たが、
庚申塔は多
摩地区でも、
町田に一番多
くあると
です。



① 養極寺院

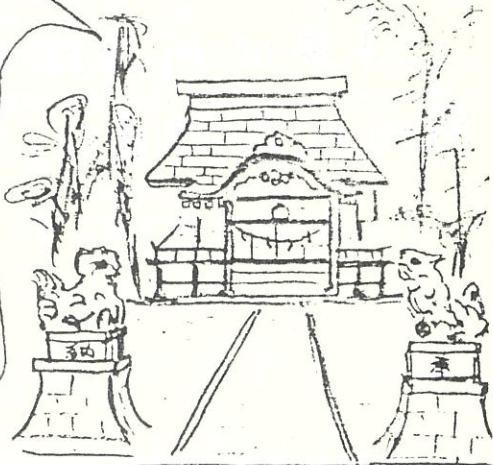
1630年に南山された
曹洞宗のお寺、お釈
迦様がご本尊です。
境内には、たくさん
石仏のほか、苔根
緑山の匂ま中村
汀女の筆に
『木山も樺の木山も
春の声』の句碑も
あります。板碑
もあつた。

⑤ 神明神社

川山田次郎良重におて
鎌倉時代に創立され
た神社、その後、7回も
再建されて今日に至
っています。境内はど
てもなまとしていて、
遊ぶ場としては最適
です。

③ 薬師堂

今は廃寺になっていま
すが、江戸時代中頃に
南山した真言宗の薬師堂の跡



④ 地神土塔

地神は、大地の
神様、お百姓さん
には大切な神
様です。



川山田センターの
庭には名木
百足の
「かりん」(カラ科)の木



ここにも川山田三ツ葉

①〈養樹院〉

江戸時代の寛永7年(1630)1月に聖翁存祝によって開山された曹洞宗のお寺です。下小山田にある大泉寺の末寺にあたり、山号は富貴山養樹院といます。

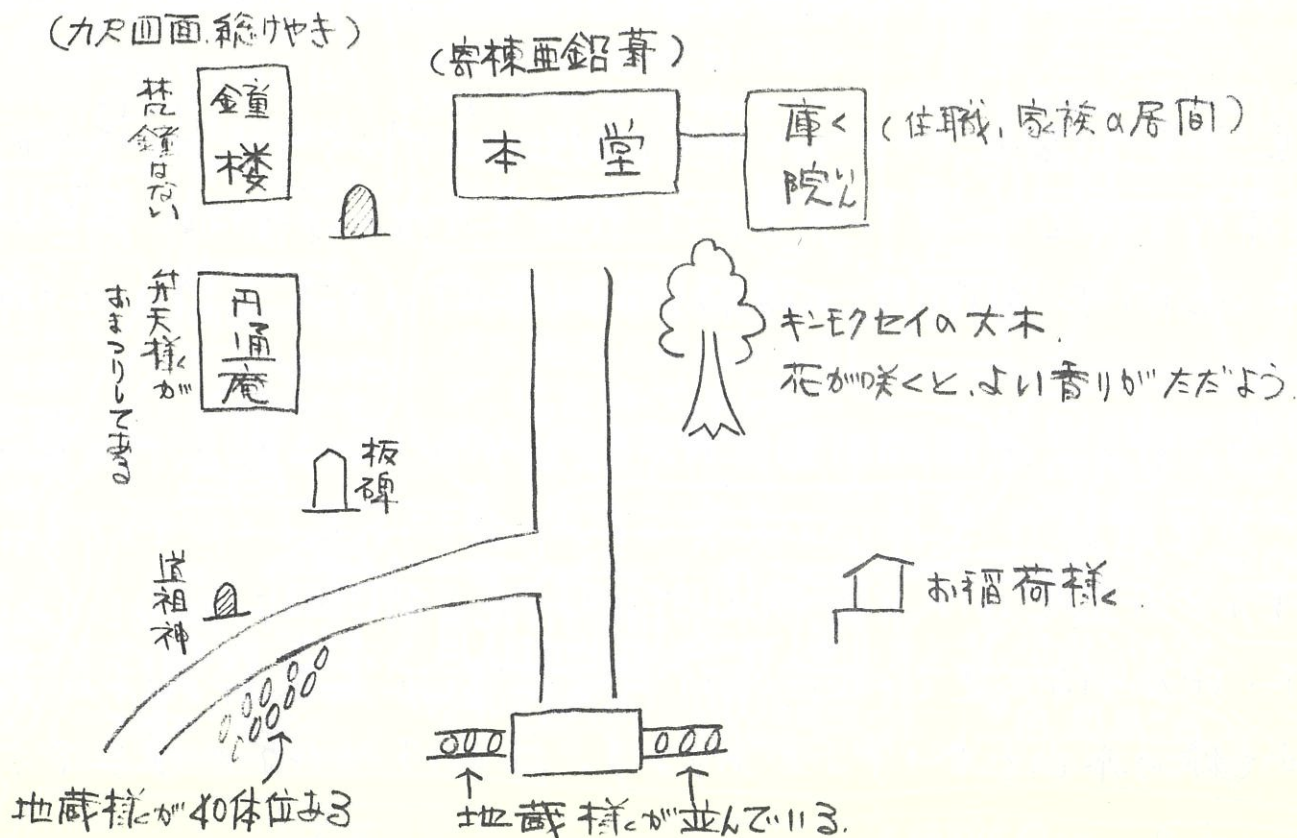
僧堂、法堂、仏殿が一ツに合った本堂と庫院と山門からなり、略式ながらも禅宗の寺院様式を備えています。本堂には、釈迦木産像が安置され、鶴見の大本山統持寺からいただいた「養樹院」の横額がかかけられています。山門は江戸時代の四脚門です。

緑の多い静かな境内には、道祖神や板碑がみられます。山門の脇に並ぶたくさんのお地藏様は、無縁仏の供養のために建てられたものだそうです。

本堂左の円通庵には、弁天塚の御神体(弁天様)がお祀りしてあります。

また、昭和44年に建てられた中村汀女が書いた彦根緑山(本名、庄助)の句碑「松山も榛の木山も春の声」があります。緑山下、この寺の壇家で汀女が寺を

おとす さい ち
訪れた際、碑を置くことにしたそうでした。 げんじょ おしや
現在の和尚さんは 22世目にあたります。 せいめ



②〈庚申塔〉

庚申信仰は平安時代に貴族の間で行われていたが、これが庶民の間に広く行われるようになったのは、江戸時代になってからです。江戸時代以降には、こうした石塔が、たくさん建てられました。

中国の道教という教えの中に三尸説というものがあります。庚申の晩には、人の寝静まるのを待って人間の体内にいる三尸虫というものが、体から脱け出して、天帝に、その人の犯した罪を報告します。天帝は、その報告にもとづいて、人間にさまざまな災いを与えるのだと考えられていました。そこで昔の人々は庚申の夜には、一晩中寝ずに、いろいろな遊びや物語りをして過ごしたのでした。

この庚申塔には、「享保四己亥无八月吉日」とあり、1719年に立てられたものとわかります。刻まれているのは、地藏様の立像。正面と左右に猿が刻まれています。この三猿も庚申塔の特徴のひとつです。

③〈薬師堂(廃寺)〉

神明神社を後にして、上小山田センターの方へ歩いて行くと、左手に小さな建物と碑が見えてきます。

今は廃寺となっていますが、江戸時代中期末に開山したと言われる真言宗の薬師堂があったところです。この薬師堂は、由木、多摩、鶴川、南、塚、町田、小宮、八王子、由井、溝、大野など、他村の人々の信仰を集めていたようです。

現在、明治35年10月8日に建てられた、瑠璃殿新築記念碑とその裏に享和元年(1801)10月12日没の二世桂元明丈和尙の墓ほか四基があります。本尊は薬師座像で、今は村の集会所に安置されています。

④〈地神塔〉

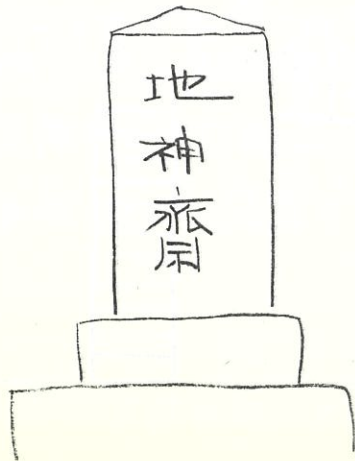
町田市内の村では、春と秋の彼岸の社日（春分・秋分に最も近い戌の日）に地神講という集まりが行われていました。午前中は、皆で村の仕事をし、午後からは家に集まってお酒を飲んだり、こぎ馬走を食べたりしながら、地神をお祀りしたのでそうです。

地神は、大地の神様ですから、田畑を耕すお百姓さんには、大変たいせつな神様でした。この地神塔は、左側面に、「天保九戌戌年九月吉日」と書いてあり、1838年

に作られたものでとわかります。今から150年ほど昔のことです。

右隣にあるのは、青面金剛をきざんだ庚申塔です。「享保二天酉十一月」とありますから、今から約250年前、1717年に建てられたものです。

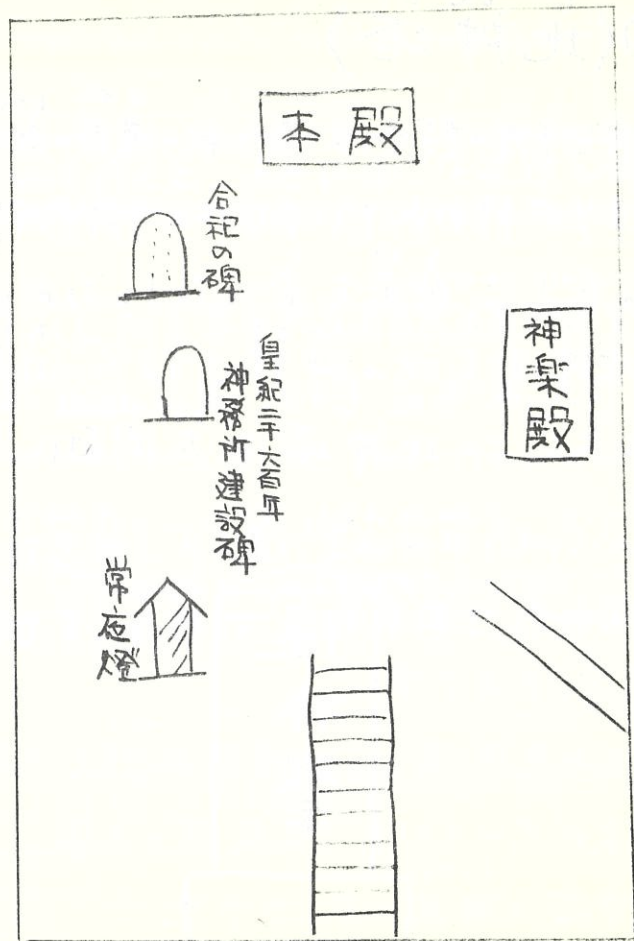
こんなところにも、江戸時代の町田が息づいているのです。



⑤ 〈神明神社〉

おや田 じろう よししげ
 小山田次郎良重により、鎌倉時代の貞応年間
 (1222~4年)に創立されました。その後も江戸時代
 に入って7回〔元和元年(1615)12月、延宝6年(1678)
 12月、元禄12年(1699)1月、正徳2年(1712)正月、
 享保13年(1728)、明和2年(1765)、安政4年(1857)〕
 も再建されたことが棟札に記されています。また、
 「寛文元年(1661)今月今日」と書かれた青銅製の
 御神鏡が祀られています。

明治7年(1874)にそれまで田中谷戸873番に
 あった山王社に神明社、天王社、箱荷神社の
 四社を合わせ、平に移って明治38年、神明神社と
 なりました。お祀りしている神様は、天照大神で毎
 年8月25日に例祭が行われます。この時、湯の

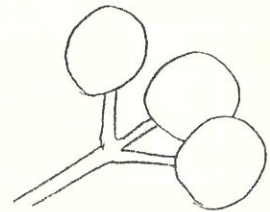


花の神事(湯花・湯立)を行います。

もともと平・田中谷戸・下根の三部落ぶらくにあったものを一つに合わせたものなので、各部落ぶらくが、年毎に交替で当番とらばんとなり、以前は座間ざまなどから神衆かむらを呼んで奉納ほうなうしたりもしました。

小山田の行事あれこれ

サイノカミ 道祖神のお祭りです。1月14日の夕方、集めた正月飾りを道の
辻やたんぼで燃やします。三又の檜の木の枝に湯でこねて作った白いお米の団子を
3個突きさしそれを焼いて食べます。また、正月2日の書き始めを
燃やし、その紙が高く舞いあがるほど、字が上手になり、その焚き火
で体をあたためると、風邪をひかなくなるともいいます。



初観音

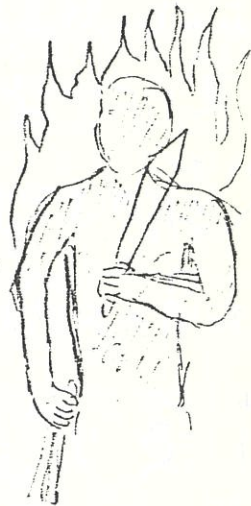
1月17日は、大泉寺境内にある観音堂の初縁日。たくさんの人びとが
馬に乗ってやってきました。馬に乗ったまま、お堂のまわりを右回りに、3周し、おさい銭
を投げ入れて、棒の先につけられたお守り札をうけとります。この日、参道では競
馬がおこなわれました。

初不動

1月28日は、日野市の高幡不動へお参りに。火災除けのお守りと
だるまとを買って帰るのですが、だるまは、毎年、少しづつ大きいものに買い換えて
いきます。

節分

2月3日か4日ごろ、豆をいるとき、イワシの頭も、
一緒に焼き、それを柊の枝に縛りつけ、人の出入りするところに、さ
ておきます。こうしておくと、鬼や悪魔入ってこようとしても、柊の
とげで目をつきまされてしまうため入ってこられないのです。



初午

節分が過ぎてから、最初の午の日。お稲荷様にお参りし、油あ
げや目ざし、お赤飯などのお供え物をします。

オコアケ

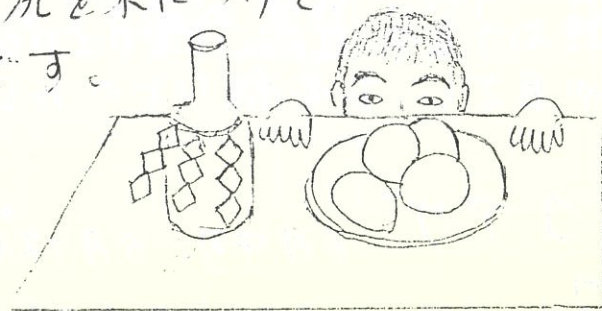
6月中旬。5月は蚕、6月は田植えと忙しい毎日を送るため、3日
骨休め。手伝いにきてくれた人たちを招いてごちそうしました。

ヨウカゾ 2月8日と12月8日には、一つ目小僧がやってくるという言い伝えがあります。一つ目小僧を追い返すには、家の前に、目のたくさんあるかごをっり立てておくと、動き目がありません。また山からとってきた、たわらくみを二本燃やして、冥いにおいをさせたりもしました。

ほろく
ハ朔 8月1日: 大風が吹いたり、稲に虫がついたりしないように氏神様にお酒のお供えをしました。

かゆ ひた
川 浸り 12月1日、ボタモチを作り、神様にお供えします。
かぞ 家族の人たちも食べますが、子どもは川へ行って、尻を水につけてこないとボタモチを食べさせなかったということです。

(以上『町田市史』より)



町田図書館にある

小山田に関する資料

(郷土資料の分類について)

M05 雑誌

17 神社に関するもの

18 寺院 "

21 東京都 "

22 町田市 "

22.4 町田市忠生 "

23 南多摩各地 "

M28 伝記的なもの

29 地図に関するもの

38 風俗習慣 "

40 自然 "

47 植物 "

52 建築 "

68 交通 "

※ なお、郷土小山田散歩をつくるにあたっては、これらの資料を参考にあてさせていただきました。

分類	書名	編著者名	発行所	発行年	内容
M05	多摩のあゆみ 第十号 —特集 多摩の城—		多摩中央信用金庫	昭53	P46 「みどりの岩・小山田城」(薄井清)
M05	でんえん 創刊号		田園出版	昭56	P24 「ふるさとを歩く〔1〕—小山田の里」 オカカタ(岡方)とタカタ(田方)という呼 び方にまつわるはなし(薄井清)
M05	でんえん NO.2		田園出版	昭56	P24 「ふるさとを歩く〔2〕—小山田三ツ葉の 由来・上小山田の田中庵三と小山田 三ツ葉について(薄井清)
M05	でんえん NO.3		田園出版	昭56	P24 「ふるさと歳時記—二月初午の 頃の榎荷講、②女の榎荷講の話か かっている(若林登…下小山田在住)
M05	でんえん NO.4		田園出版	昭57	P24 「ふるさとを歩く〔4〕—戦車道路頭末 小山田の近くにある戦車道路の歩きまで (薄井清)
M05	でんえん NO.5		田園出版		P26 「ふるさとを歩く〔5〕—中世が息づく 大泉寺」中世時代の文泉寺と小山田 について(薄井清)
M05	ふたんぎ町田 NO.7		ふたんぎ町田クルー	昭57	P54 「小山田遺跡見学に参加して」(若林登) P56 「薄井清氏から小山田の歴史を聞く (堀江泰紹)

分類	書名	編著者名	発行所	発行年	内容
M05	町田郷土研究会会報 郷土文化 第6号		町田郷土研究会	昭28	「小山田の関」(天野佐一郎)
M05	“ 第15号			昭29	「小山田八郷」(天野佐一郎)
M05	“ 第21号			昭30	「武相の国民党(4)小山田の国民党」 (桜田つねひさ)
M05	“ 第30号			昭31	「小山田の関」(天野佐一郎)
M05	“ 第35号			昭32	「小山田の里」(下村照路)
M05	“ 第40号			昭33	「小山田氏に就いて」(天野佐一郎)
M05	“ 第46号			昭35	「小山田有重の職掌」(下村栄安)
M05	町田地方史研究 第2号		町田地方史研究会	昭52	「新説・小山田一族」中世の小山田氏について(森山兼光)
M05	町田ふだんず 第3号		ふだん記町田グループ	昭57	P54「小山田遺跡見学に参加して」(若林登) P56「薄井清氏から小山田歴史を聞く」 (堀江泰紹)
M05	むれさき 創刊号		むれさき会	昭48	P17「(実施記録)小山田城址及び大泉寺見学」

分類	書名	編者名	発行所	発行年	内容
M17	南多摩神社誌	南多摩神社誌編纂委員会	八南神職会 八南神社統一会	昭54	P167神明神社(上小山田), P164小山田神社 P165白山神社・P1上根神社(以上, 小山田について)
M18	東京都板碑所在目録(多摩分)		東京都教育委員会	昭55	P149~151, 上, 下小山田の板碑47基について, 所有者, 所在地等を記録。
M18	武蔵国神社寺院史		商工経済社	昭31	P50, 白山神社, 住吉神社, 伊豆大泉寺 正山寺, P81養樹院について
M21	郷土町田町の歴史第一巻	下村栄安編	町田町教育委員会	昭32	P48「小山田庄」の項で小山田氏と小山田庄の歴史について書いてある
M21	三多摩の壮士	佐藤孝太郎	武蔵書房	昭48	P18~20 明治18年の小山田困民事件について
M21	新編武蔵風土記稿第四巻	蘆田伊人編	雄山閣	昭47	P297に巻之八十九多摩郡之一, P326巻之九十多摩郡之二に小山田庄, 小山田保のことがかいてある。
M21	多摩丘陵文化財総合調査	東京都教育委員会	東京都教育委員会	昭35	P10「植物」一大泉寺の大モミ P40「古社寺建築」一大泉寺
M21	多摩丘陵文化財総合調査概報		東京都教育委員会	昭34	P1 & P5に「社寺建築」の項に大泉寺について詳しくかいてある。

分類	書名	編者名	発行所	発行	内容
M21	東京都の文化財	東京都 教育委員会	東京都教育委員会	昭46	P.96 都重宝(彫刻)木造無極和尚像 (説明・写真)大泉寺
M21	東京都の文化財一		東京都教育委員会	昭53	P.123 (有形文化財・彫刻)木造無極和尚 坐像の写真と説明がある。
M21	滅びゆく武蔵野第二集	桜井正信	有峰書店	昭52	P.136~138に小山田氏の興亡について P.144
M21	町田 — 歴史と文化財 —	林隆朗編	有隣堂	昭50	P.23「小山田有重とその一族」 P.25「小山田高家の忠節」 P.26「室町戦国期の小山田氏」
M21	武蔵野史蹟ハイフ	東京新聞 印刷局編	昭和図書出版	昭56	P.151とP.156 小山田城址と大泉寺に ついて。
M21	武蔵名勝図会	宮嶋秀	慶友社	昭50	P.246~250に小山田の歴史について
M22	忠生村誌		忠生村村誌編 委員会	昭38	P.15~20 小山田に城を築く。P.29 小山田の庄 P.24 小山田太郎高家 P.57 小山田組織
M22	町田市の文化財 10	文化財専門 委員会	町田市教育委員会	昭47	町田市中西部の民俗の特色の中で 上下小山田の民俗について

分類	書名	編者名	発行所	発行年	内容
M22	町田市の明治百年	堀江泰紹	町田ジャーナル社	昭44	P.27~32「忠生の先覚者たち」の中で小山田 与清、若林有信、薄井盛恭について P.34「天泉寺の春」(薄井清) P.190「小山田ミツ葉物語」(薄井清)
M22	町田近代百年史 増補 町田市の明治百年	堀江泰紹	町田ジャーナル社	昭50	町田市の明治百年と同じ
M22	町田の歴史をたどる		町田市	昭56	P.26~37に小山田氏、中世の小山田、 小山田遺跡、現代の小山田について かいてある。
M22 か JN	町田の歴史をさぐる		町田市	昭53	P.33「小山田一族の栄枯盛衰」、 P.182「小山田ミツ葉と乳牛」
M22.4	小山田の風土と歴史	堀江泰紹	小山田太郎商家公 顕彰碑建立委員会	昭54	小山田の歴史、小山田一族について また天泉寺についてかいてある。
M22.4	小山田物語	堀江泰紹編	町田ジャーナル社	昭47	小山田の歴史、年中行事、自然を通し、風土 への愛情と新しい時代の「ふるさと創造」に ついてかいてある。
M22.4	東京都町田市小山田遺跡群		東京町田小山田遺跡 群調査会	昭57	現在の小山田田地、地区から出た各時代の 発掘物の写真と説明がある。

分類	書名	編著者名	発行所	発行年	内容
M224	わがふるさと小山田	薄井清	町田市	昭47	小山田の風土(歴史・自然・人情) 自然保存・農業・今後の見通しについて
M23	多摩の歴史 7(町田市の歴史)	下村栄安	武蔵野郷土史 刊行会・有峰書店	昭50	P.172 鎌倉より戦国時代の項で小山 田の歴史・人物についてかいてある。
M28	多摩の人物史 —古代より現代まで—	倉間勝義 岩淵久編	武蔵野郷土刊 行会	昭52	P.95~96に小山田有重・高家・与清について 事典方式で書かれている。
M28	町田に影を落とした旅人たち	飯田俊郎		昭56	P.53~57 小山田一族について
M29	小田急沿線ぶらりハイク		椿書院	昭48	P.125. 町田の古里 — 小山田地区の中で 大泉寺等について書いてある。
M29	小田急六拾七駅気まま旅		(株)小田急電鉄	昭55	P.20. 「奥州百道と大泉寺」
M38	東京の伝説	武田静澄 安西篤子	角川書店	昭52	P.115 影とり沼の話と大泉寺の説明 がある。
M38	八王子周辺の民話	清水成夫編	都立八王子 図書館	昭43	P.57 小山田に伝わる盲者の崇りの 話がかつていいる。
M38	武蔵の伝説	大島建彦 瘦辺雅子編	第一法規	昭52	P.98 影取り沼の話
M38	武蔵野の地藏尊	三吉朋十	有峰書店	昭47	P.12 大泉寺の八石地藏について。

分類	書名	編者名	発行所	発行年	内容
M38	武蔵野の民話と伝説(1)	原田聖久	有峰書店	昭49	下小山田に伝わる民話と伝説のほかに、 おぼろげに記されている。
M38	武蔵野風土記		朝日新聞社	昭44	小山田を通っている鎌倉道のこと や小山田城址について
M40	相模原台地・多摩丘陵の自然	有藤博	相模台多摩丘陵 自然度調査会	昭54	P.28 野鳥・植物等の植生調査 「タマノカンアオイ」について。
M40	町田の自然 — この子らのために	町田の自然 編集委員会	町田市	昭53	P.259. 「町田の万葉植物」の中にかア オイの説明及び図が記されている。 写真のP.4にかトウカンアオイあり。
M47	多摩丘陵と相模原台地の 自然	山岡文彦	青磁社	昭57	P.25 大泉寺の植物について P.30, 42. タマノカンアオイについて
M47	町田名木百選写真集	町田市花と みどりの会	町田市	昭56	名木の写真と説明・名木分布図 (下小山田地区10本、上小山田地区1本)
M52	町田の近世建築		町田市史編さん 委員会	昭51	P.24~28 大泉寺. P.28 養樹院正山寺 P.23. 持宝院. P.64. 白山神社. P.147. 旧家森家 について。
M68	鎌倉街道Ⅲ (史地調査史跡編)	峰矢敬啓	有峰書店		P.111 「蓮生寺と大泉寺」小山田の関. 大泉寺について。

分類	書名	編著者	発行所	発行年	内容
M68	鎌倉街道(Ⅳ) (古道探訪編)	峰矢敬吾	有峰書店新社	昭58	P.167 小山田氏について
M68	国鉄・私鉄多摩駅名の由来	グループ 「うつき」	武蔵野郷域 刊行会	昭55	P.193 大泉寺の由来について
M68	多摩の古道と伝説	羽根田正明	有峰書店	昭52	P.107 小山田の関について

1	20	20	20	20
2	20	20	20	20
3	20	20	20	20
4	20	20	20	20
5	20	20	20	20
6	20	20	20	20
7	20	20	20	20
8	20	20	20	20
9	20	20	20	20
10	20	20	20	20
11	20	20	20	20
12	20	20	20	20
13	20	20	20	20

郷土・小山田散歩

昭和59年6月発行

限定 500部

編集：町田市立図書館

郷土資料研究会

発行所：町田市立町田図書館

東京都町田市中町 2013023

電話 0427(22)3768

